



東京バプテスト神学校

〒112-0012 東京都文京区大塚 1-1-18

TEL: (03) 3947-5141 FAX: (03) 3947-5145

E-mail: seminary@tbts.jp

tbts.jp

検索



2025 年度後期 東京バプテスト神学校受講案内

【学 期】 後期 10 月 6 日(月)～2026 年 2 月 28 日(土)
 <冬期休講 12 月 16 日(火)～1 月 3 日(土)>

【休 業 日】 主日、水曜日、国民の祝日(ただし、2 月 11 日は除きます)

【受講時間】 月曜・火曜・木曜・金曜日 午後 7 時～8 時 40 分(100 分)
 土曜日 ①9 時 40 分～11 時 20 分(100 分) ②11 時 30 分～12 時 30 分(60 分)

【受 講 料】

	本校学生	本校学生以外の受講者	
		一般受講	後援会受講
科目 4 単位ごと	25,000 円	30,000 円	17,500 円 ※通信事務費を含む
科目 2 単位ごと (夏期・冬期講座、合唱、他)	12,500 円	15,000 円	7,500 円
通信事務費 1 科目ごと	5,000 円	5,000 円	5,000 円 ※教会共同受講の場合は免除
教会実習／卒業論文 (専攻科 3 年目)	30,000 円		
専攻実技(4 単位)	75,000 円		

※「一般受講」は公開講座及び土曜日の講座に限る(16 単位相当の取得までを認める)。

※「後援会受講」は年会費 5,000 円かオンライン月々支援が必要となる(平日の一般科目も受講可能)。

【後期科目案内】

曜日	科目名	単位	共通/必修	担当講師
月	*公開講座「礼拝学Ⅱ」	4	専攻科必修	小海基
月	旧約聖書学Ⅱ	4	専攻科必修	日高嘉彦
火	*公開講座「宣教学」	4	本科必修	野口日宇満
火	神学実践	4	専攻科必修	濱野道雄
木	*公開講座「新約聖書学Ⅱ」	4	専攻科必修	高橋周也
木	ヘブル語Ⅰ	4	本科必修	城倉啓
金	説教Ⅱ	4	専攻科必修	片山寛
金	キリスト教音楽史	4	本科・音楽科必修	星野孝子、山寄美奈
土	*公開講座「合唱」	2	音楽科必修	山中臨在
土	会衆賛美Ⅰ	4	音楽科必修	菊地るみ子、江原美歌子、 西野修平
通年	キリスト教史	4	本科必修	内藤幹子
	ギリシャ語Ⅱ / ヘブル語Ⅱ	4	専攻科必修	城倉啓
	アラム語	4	共通	城倉啓
冬期	*公開講座「それでも生きる～コヘレトの言葉に学ぶ」(12 月 26～27 日)	2	本科・専攻科必修	小友聡

※通年科目の講義は、すべてビデオ受講のみとなります。

2025年度後期 講義シラバス(* 公開講座)

* 月曜「礼拝学Ⅱ」～諸教会の礼拝改革が目指しているもの（講師：小海基）

ここで扱うのは特定教派の「礼拝学」でなく、世界の諸教派が今、どんな「礼拝改革」をしようとしているかという問題です。第1次大戦の従軍牧師たちが教派によって礼拝があまりにも違っていることに驚き、突合せをしてみたことが近代以降の「典礼刷新運動」、「礼拝改革」の始まりと言われています。エキュメニズムの発展の中で共同の礼拝や相互陪餐の模索も始まっていきます。1982年のWCCが出した「リマ文書」、「リマ典礼」はその一つの結実です。本講前半では礼拝現場で何が問題となっているかを学び、後半ではユダヤ教からキリスト教各教派の礼拝を概観します。

テキスト レジュメを配信します。

月曜「旧約聖書学Ⅱ」～揺らぐ時代の信仰と希望ーダニエル書を読む（講師：日高嘉彦）

ダニエル書は、ヘレニズムというかつて経験したことのない激動の時代の中で、先人が大事に守ってきた信仰と神理解の枠組みが揺さぶられ、新たな信仰の地平へと歩み出すことを迫られた書物です。そしてこのダニエル書の流れの先に、新約聖書の世界が広がります。本講では、全12章を丁寧に読みながら、その歴史的背景や象徴的な表現の意味を一緒に考えます。ダニエル書を通し、私たちのメシア信仰、復活と永遠の命、そして終末への希望が、どんな状況から生まれてきたかを確認し、不確かな現代において希望を持って生きるための神からの知恵と励ましを与えられたいと願います。

テキスト 旧約聖書『ダニエル書』 **参考書** 講義内で紹介します。

* 火曜「宣教学」～インドネシア宣教の実践を通して（講師：野口日宇満）

日本バプテスト連盟の国外伝道の歴史を振り返りつつ、教会が実際に宣教師を送り出し、祈り、支えることの恵みと課題について神学的な議論を深める。その際、長い植民地支配を受けた歴史をもち、世界で最も多くのイスラム教徒が暮らす多民族国家インドネシア共和国における宣教の歴史を特に視野に入れる。また宣教の視点から旧新約聖書を読むことによって、教会が宣教の民として生きるとはどういうことかを探求する。その目指すところは、教会がこの世界に何を目指して存在しているのかという教会論の本質に対する考察を深めることであり、何を伝えるのかという福音の本質に対する考察を深めることである。そしてその考察は、将来の牧会や奉仕において適用されていかなければならない。また現代の世俗化した文化や多元主義の状況において、確信をもって福音の真理を宣べ伝える力を養うことを目指す。講義は、基本的にテキストに沿って進められ、分担してテキストの要約を発表する。

テキスト レスリー・ニュービギン『宣教学入門』日本基督教団出版局、2010年。（各自で購入する。） **参考書** クリストファー・J・H・ライト『神の宣教 第1巻、第2巻、第3巻』東京ミッション研究所、2016年。（購入の必要なし。）

火曜「神学実践」～神のことばを生きる（講師：濱野道雄）

神学がいかに実践されてゆくのかを考えます。「神学入門」が神学校で学ぶ神学の入口なら、「神学実践」は出口（もっとも、ここからまた新しい歩みが始まります）となります。本校では同じ名前の科目を複数回受講して単位取得ができますので、内容（関連し合っていますが）を3種類考えています。それぞれ構築（組織）神学、宣教学、教会形成論を中心としています。本年度は構築神学（三位一体、創造、キリスト、聖霊、教会、礼拝、礼典、終末についての教説）を中心に、その内容を概観しつつ、それがこの世界と教会、人生をいかに形作って行くのかを共に考えましょう。

テキスト 『21世紀のキリスト教入門：一つの教会の豊かな信仰』（フスト・ゴンザレス・神代真砂実・高野佳男訳、教文館、2022） **参考書** 『バプテスト教会の形成』（N.H. メアリング、W.S. ハドソン、日本バプテスト同盟教育部、1968年）、『バプテストの信仰』（寺園喜基、金丸英子、日本バプテスト連盟宣教研究所、2015）

* 木曜「新約聖書学Ⅱ」～あなたの信仰はどこから？（講師：高橋周也）

この講座では、死のテーマを中心として新約聖書に取り組みます。イエスの死は、新約聖書の中心的な事柄である一方で、「聖書全体に共通な死の理解といったものは存在しない」（ユンゲル）のです。また、キリスト教は、2000年間、諸文化、思想、あるいは時代状況や周辺世界の影響を受けながら、あなたを含む多様な人びとを介して継承されてきました。聖書自身も、神と人、人と人との語りの足跡です。よって、受講生には、あらゆる先入観からほどかれ、自身を再認識することが求められます。講義は知識の一方的な伝達ではなく、講師と受講生がともに問いを深める「学びの共同体」となることを目指して行われます。小グループでの対話、釈義演習、「問いの共有ノート」の記録などを通じて、

離れていても共にある時間を大切にしましょう。多様な応答を歓迎し、沈黙や迷いも学びの一部と捉えます。受講にあたり最もご準備いただきたいのは、ありのままのあなたです。

テキスト 『聖書 聖書協会共同訳』日本聖書協会ほか、複数の翻訳を参照する準備をしておいてください。 **参考書** 第1回目の講義で紹介します(購入の必要はありません)。

木曜「ヘブル語Ⅰ」～ヘブル語を学ぼう（講師：城倉啓）

ヘブル語は見たこともない形をしています。右から左に読みます。まるで暗号、とっつきにくく感じますね。でも、とっつきにくいことは、ほぼそれだけです。ギリシャ語に比べれば文法も簡単。語彙も断然少ないのです。この講義では旧約聖書の主要な原語であるヘブル語の全体像を把握します。辞書が引けるようになります。そして後期の原典講読の講義の準備をします。それは「暗号解読」の基礎技術を習得する学びです。

テキスト 『超入門ヘブル語のススメ』(2023年再刷以降のもの)いのちのことば社、城倉啓著。 **参考書** 『ヘブル語語彙集』(2023年)いのちのことば社、城倉啓著。

金曜「説教Ⅱ」～みことばを語る者の神学（講師：片山寛）

説教Ⅱでは、説教の実際を学びます。Zoomによるオンライン形式ですので困難はあるのですが、説教を書く準備作業、聖書の読み方、語学の問題、説教黙想の仕方、説教を書く場合に気をつけるべき注意点、章立て、説教を語る場合の注意点、説教後の祈り、説教後の聴衆との対話など、説教を実際に行う場合のノウハウを学びます。そして実際に説教も授業の中でしていただきます。お互いに説教を批評しあうのですが、その場合のポイントも考えます。これは強制ではありませんが、自分の教会の礼拝で説教の実習をしていただき、その報告をしていただくことも考えています。

テキスト テキストはありません。毎回、私が送るレジュメがテキストの代りとなります。 **参考書** ルドルフ・ボーレン『説教Ⅰ、Ⅱ』（日本基督教団出版局1977年、1978年）

金曜「キリスト教音楽史」～古代の賛美から現代の響きへ（講師：星野孝子、山崎美奈）

キリスト教音楽のはじまりと変遷は、西洋音楽史とどのような関係があるかを学びます。まず、聖書を紐解き、古代の人々の賛美がどのようなものであったかを確かめます。そこから、キリスト教の賛美と音楽の関係が、長い時の流れと共にどのように変化していったのかを学びます。そして、私たちの歌っている賛美歌がどのように作曲され、時をこえて受け継がれていったのか、その流れをたどります。西洋音楽の歴史を学ぶ際に新生讃美歌を参照しますので、新生讃美歌の理解が西洋音楽史という観点から深まります。＜課題＞①キリスト教音楽に関連したテーマを一つ決め、レポートにまとめ、発表する。②古典派以降の作曲家について一人を選び、生涯とその活動をまとめ、発表する。③キリスト教音楽を鑑賞、または楽器博物館などに足を運び、そのレポートを提出する。

テキスト 聖書(新共同訳)、新生讃美歌 テキストは別途用意します。 **参考書** 「キリスト教音楽の歴史」(金澤正剛・著、日本キリスト教団出版局)

*土曜「合唱」～共に豊かな賛美を！（講師：山中臨在）

個性の異なる者たちが互いに聞き合い、受け入れ合い、支え合って一つのハーモニーを奏でて主を賛美する恵みや豊かさそしてその意義を、合唱を通して学ぶ。聖歌隊合唱曲(新作含む)やオラトリオ作品などを主に歌う。また、神学校の演奏会等において神学校聖歌隊として奉仕する。本校神学生以外の一般参加者も広く参加を歓迎する。

テキスト 特になし。楽譜を配布。別途楽譜代を徴収。

土曜「会衆賛美Ⅰ」～教会をかたちづくる会衆による賛美（講師：菊地るみ子、江原美歌子、西野修平）

礼拝の中で、共に心を合わせ、神を賛美する会衆賛美は、礼拝に招かれた一人ひとりへの神からの恵みです。そして会衆賛美を含む多様な礼拝音楽を通して、神と人に仕える信徒を励まし、教会形成につながる力をいただきます。ご一緒に教会の礼拝、礼拝音楽を考え、神が求めておられるまことの礼拝を模索し、教会をかたちづくる会衆賛美、礼拝音楽の豊かさを見出せたらと思います。

テキスト 聖書・新生讃美歌・「キリスト者の礼拝」・「新生讃美歌ブックレット」

2025年度後期 講義シラバス(*公開講座)

ビデオ講座「キリスト教史」～物語のあらすじを掴む (講師:内藤幹子)

本講義は、受講者がキリスト教の歴史(世界、日本)の「あらすじ」「見取り図」を理解し、その知識を基に自分自身でその後の学びを深めていくことができるようになることを目指すものです。また、その「ストーリー」の中に登場する人物やキリスト教神学思想についての基礎知識を得ることができる内容でもあります。特定のテキストに沿って進めていない部分が大半であるため、可能であれば、講義で取り扱っている内容について記した書籍や、用語・人物について調べるための辞典類をお手元に置いておくことをお勧めします。

テキスト 特にありません。

ビデオ講座「ギリシャ語Ⅱ」～マルコ福音書を読む (講師:城倉啓)

「原典で聖書を読むことは10冊の注解書を読むことにまざる」と言われます。聖書を原典で読みたいという志を心から応援しています。マルコ福音書は最古の福音書です。著者マルコは、パウロと緊張関係を持ちながら活動した初代教会指導者です。彼の第一言語はアラム語・ヘブル語、ギリシャ語は第二言語です。アラム語・ヘブル語なまりのギリシャ語で書かれたギリシャ語であることは、独特の味わいをもたらしています。原典を読むにあたって、まずは単語を品詞に分類し、ばらばらに分析します。次に意味を成す一文へと統合していきます。ギリシャ語から日本語への翻訳のポイントは「時称の違い」「分詞の用法」です。最後の3回で、写本(底本)、本文批評という考え方と実際を取り扱います。いざ原典の大海原へ。

テキスト Nestle-Aland Novum Testamentum Graece, Deutsche Bibelgesellschaft Stuttgart (26版以降)。岩隈直『増補改訂ギリシャ語辞典』山本書店(増補初版1982年)。岩隈直『増補改訂ギリシャ語逆引辞典』山本書店(増補初版1989年)。野口誠『聖書検定ギリシア語公式テキスト【初級】・【上級】』聖書検定協会(2023年)。田川建三『書物としての新約聖書』勁草書房(2001年)。**参考書** 大貫隆『新約聖書ギリシア語入門』岩波書店(初版2004年)

ビデオ講座「ヘブル語Ⅱ」～みことばを味わい尽くそう (講師:城倉啓)

旧約聖書の有名な聖句11か所を、原典でじっくりと読み解き、自分訳を創り出すことをめざします。テキスト『ヘブル語文法の手ほどき』に基づいて、音読・暗号解読・単語のおさらい・統語・自分訳(・なぞり書き)を行い、原典を味わいます。最後の3回で本文批評について紹介し、原典の奥行きをも知ります。原典の大海原へようこそ。

テキスト Biblia Habraica Stuttgartensia, Deutsche Bibelgesellschaft Stuttgart, 1977。『ヘブル語文法の手ほどき』『ヘブル語のスズメ』『ヘブル語語彙集』、いずれも、いのちのことば社、城倉啓著。『BHSのマフテアハ』(PDF版を配布します)**参考書** 谷川政美『聖書ヘブライ語日本語辞典』ミルトス、2018年。

ビデオ講座「アラム語」～イエスの用いた言語を学ぶ (講師:城倉啓)

旧約聖書にはアラム語で書かれた部分があります。大きな塊は①ダニエル書2章4節b～7章28節、②エズラ記4章8節～6章18節、同7章12節～26節の二書にあります。この講義ではヘブル語文法を復習しながら、アラム語の文法を学びます。両者の文字は同じですし、文法もよく似ていますから大丈夫です。実際の聖句を読んでみましょう。さらに新約聖書の中に散りばめられたアラム語についても解説していきます。「アッバ」「エロイ・エロイ・ラマ・サバクタニ」「マラナタ」、これらはみなアラム語です。

テキスト 講師自作の聖書アラム語の教科書(未出版)をPDFファイルで配付いたします。城倉啓『ヘブル語のスズメ』いのちのことば社、2022年。Biblia Habraica Stuttgartensia, Deutsche Bibelgesellschaft Stuttgart, 1977。谷川政美『聖書ヘブライ語日本語辞典』ミルトス、2018年。

＜お問合せ＞(月・火・木・金、午後3時～9時)

・TEL: 03-3947-5141 ・FAX: 03-3947-5145 ・E-mail: seminary@tbts.jp